よくわかるマイヒロイック

社員支援制度の活用促進と人的資本施策の改善へ

1分チェックとAIで社員と家族の悩みを整理。
必要な制度・専門家へつなぎ、
利用と行動を匿名集計で可視化します。

マイヒロイックは、社員と家族の悩みを整理し、必要な支援へつなぐサービスです。

社員には

「何から始めるか」が分かる

1分チェックとAIで気がかりを整理。
公的情報・専門家へ進み、
気持ちの変化まで分かる

企業には

支援の届き方と改善点が分かる

個別の相談内容を受け取らず、
利用・行動・変化を匿名集計データで確認。

担当者が困る「制度と利用の間」を支える

支援があっても、本人が相談先を選べない場面があります

社員の状況

- 悩みを言葉にできない
- 会社に話しにくい

担当者の課題

- 制度を周知しても届かない
- 個別の生活相談は担いにくい

マイヒロイックの役割

課題を整理 → 支援へ案内 → 本人の意思で利用

課題の整理と支援への案内を共通化し、
社員が本人の意思で利用に進める入口を設ける

利用の流れと、企業へのフィードバック

相談の入口から、本人の行動と企業の施策改善まで

01

１分チェック

気がかりを簡単整理

02

HEROICUE（AI）

次の一手がわかる

03

支援を選ぶ

制度・情報・専門家

04

本人が行動

確認・予約・相談

利用・行動を匿名集計

企業のデータ確認

匿名集計を受け取る → 周知・制度案内・相談導線を改善

利用と行動の匿名集計を受け取り、
周知・制度案内・相談導線の改善を決める

保存・追跡・振り返りは追加設計。匿名での回答の対応づけと集計方法を確認します。

既存サービスとMY HEROICの役割の違い

主な強みを比較し、貴社の既存施策と組み合わせる

既存サービスの例	主な強み	MY HEROICが補う役割
総合福利厚生	優待・学習・育児・介護など 幅広い支援メニュー	本人の気がかりを整理し 必要な支援の利用へ
EAP・相談窓口	心理専門家による相談 複数の相談方法	お金・仕事・家庭から 適切な相談先を選ぶ入口
サーベイ・人的資本施策	社員の状態・組織課題の把握 施策検討の材料	生活課題の整理と行動支援 支援後の変化の確認
社内制度・人事ポータル	制度情報・申請先の提供 社内への案内	相談内容に応じて 制度・窓口の利用へ

各社にも相談・行動支援機能があります。提供範囲は契約次第であり、機能の有無や優劣の断定ではありません。

マイヒロイックで加えられる4つの価値

Life Ability（生活を設計・運用する力）を、整理から行動まで支える

01 | 始めやすさ

お金・キャリア・家庭から
短いチェックで始める

02 | 支援範囲

お金・家族・仕事に加え、
相続・終活・介護・健康も支援

03 | 行動への接続

公的情報・既存制度・専門家を
状況に合わせて案内する

04 | 改善の判断材料

利用・行動・変化を確認し
支援の届き方を見直す

他社との機能重複を確認し、貴社に不足する導線と評価の仕組みを合意します。

社員がマイヒロイックでできること

気がかりの整理から、必要な情報・相談先の選択まで

機能	社員ができること	利用後に分かること
1分チェック	短い質問で気がかりと 相談テーマを確認する	**何について相談したいか**
HEROICUE（AI）の コーチング	状況・気持ち・優先順位を整理し 本人が納得できる選択を考える	**今やること／後でよいこと**
HEROICUE（AI）の 案内	公的情報・制度・相談先と 利用前の確認事項を調べる	**次に取る行動と相談先**
公的情報確認・ 専門家接続	公的情報を確認し、内容・費用を比べ 本人の意思で相談へ進む	**必要な支援と利用方法**
任意の振り返り （追加設計）	行動の実行と支援後の変化を 記録・確認する	**次の行動と生活上の変化**

AIは課題整理と情報案内を担当します。法律・医療・金融等の専門的な判断は専門家に相談します。

相談できる6つの生活領域

社員本人と家族の気がかりを、領域を横断して整理する

01 | 相続・終活・手続き

相続、遺言、登記、成年後見
将来の備えと必要な手続き

02 | 介護・老後

親の暮らし、介護の気がかり
地域の窓口や支援情報

03 | お金・家計

家計、住まい、資産の気がかり
固定費や公的支援の情報

04 | 家族・人間関係

家庭での困りごとや気持ちの整理
必要な情報・相談先の確認

05 | 仕事・キャリア

働き方、資格取得、学び直し
社内制度や相談先の確認

06 | 健康・医療

本人と家族の健康の気がかり
医療相談や必要な支援の案内

下記は相談テーマの例です。専門家の対応範囲・地域・料金・利用条件は個別に確認します。

専門家・専門企業につながる具体的な支援

課題に応じて、専門資格者・専門職・専門企業のサービスを案内する

支援領域	専門サービスの例	案内する専門家・提供者の例
法務・相続	相続、遺言、登記、成年後見 家庭問題に関する相談	弁護士、司法書士 税理士、行政書士等
医療・健康	良医紹介、遠隔医療相談 健康に関する相談	医療・健康の専門サービス
看護・介護	プライベート看護、介護相談 地域の支援窓口の確認	看護・介護の専門職・専門企業
住まい・資産	不動産売買、空き家相談 資産管理に関する相談	不動産等の専門企業
学び・キャリア	資格取得、学び直し 働き方・キャリアの相談	学習・キャリアの支援サービス
終活・葬祭	将来の備え、終活 葬祭に関する相談	終活・葬祭の専門サービス

HEROICは接続・紹介を担います。個別サービスは各提供者が実施し、費用と契約条件を利用前に確認します。

情報を調べる・専門家に相談する方法

本人が内容・費用・利用条件を確認し、必要な支援を選ぶ

利用方法	できること	利用前に確認すること
公的情報を確認する	制度や手続きの情報を調べ 条件・申請先を確認する	最新の情報、対象条件 手続きと問い合わせ先
専門資格者に相談する	法務・相続・お金・手続き等を 資格者へ相談する	資格と対応範囲 予約・費用・契約先
専門企業・専門職を利用する	医療、看護・介護、不動産 学び・終活等の支援を選ぶ	地域と内容、利用条件 費用と専門サービスの責任
匿名メタバース相談を選ぶ	相談への心理的な負担を抑える 相談環境を利用する	開催・予約条件、相談範囲 匿名性と本人確認の範囲

メタバース相談は開催・予約・対応範囲を確認して案内します。匿名で利用できる範囲も事前に確認します。

人事・現場・経営に返るメリット

社員の生活上の改善を、企業が確認できる指標につなげる

企業の目的	MY HEROICで目指す変化	検証すること
社員が働き続けやすい環境	本人と家族が支援を選べる 両立の気がかりに対処する	支援利用・行動・不安の変化 離職等は中長期で確認
人事の案内負担を軽くする	共通の入口で整理し 必要な専門対応へ案内する	問い合わせ件数・対応時間 担当者の運用負荷
既存制度を活かす	悩みと制度を結びつけ 必要な社員へ情報を届ける	制度・相談窓口の案内状況 利用への接続
経営へ費用と成果を説明する	匿名集計と費用を比較し 継続する支援を判断する	利用・行動・支援後の変化 検証済みの企業便益

離職・生産性・負担軽減への効果は導入後に検証。人的資本やESGの開示には測定根拠が必要です。

利用例：家計の不安と、親の暮らし

社員の体験と、企業が確認することを並べて示す

家計が気になる社員

**「お金が心配で、
何を見直せばいいか分からない」**

01 AIで優先順位を整理

02 固定費や公的支援を確認

03 必要なら専門家の条件を確認

親の暮らしが気になる社員

**「離れて暮らす親のことを、
どこに相談すればいい？」**

01 確認事項と次の行動を整理

02 公的窓口・社内制度を案内

03 本人の意思で相談へ進む

企業の確認

必要な情報にたどり着けたか | 行動できたか | 不安や余裕に変化があるか

想定事例であり導入実績ではありません。専門サービスの費用・条件は利用前に確認します。

社員の安心を支える情報共有ルール

社員への個別支援と、企業への匿名集計を明確に分ける

相談内容・会話履歴・個人別の回答は、会社には共有されません。
会社には、個人を特定できない10名以上の匿名・集計情報のみが共有され、人事評価や査定には使用されません。

企業が確認すること	運用で守ること
利用・生活課題の傾向・行動・変化の集計	少人数や個人の推測につながる表示・出力を抑制
属性は性別・年代・地域・家族構成	閲覧権限・画面・出力に同じ集計ルールを適用

本人の同意が必要な専門家への情報提供と、企業向けの匿名集計を区別して運用します。

匿名集計データは「次に変えること」を示す

利用データに加え、周知と支援導線の改善案を受け取る

観測した状況の例	担当者が判断すること	次月の改善案の例
案内対象に比べて利用が少ない	社員に入口が届いているか	周知場所・時間・文面を変える
相談しても次の行動を選べない	案内が具体的で分かりやすいか	行動候補と相談条件を見直す
相談希望後に予約へ進まない	費用・予約方法に障壁があるか	条件説明・問い合わせ導線を改善
行動後の変化を回答できている	支援が役立ったか 何を継続するか	回答人数と条件を添えて評価 支援テーマと案内を改善

下表は報告内容の設計例。実装・回答率・集計可能な人数を確認し、実測結果を報告します。

離職抑制・生産性向上・制度活用で、投資回収を目指す

試算例：離職コスト回避による投資回収（50名利用・12か月、100万円／人を仮定）

企業に帰属する年間便益

100万円

1名分の離職コスト回避を
確認できた場合

－

年間総費用

46万円

利用料30万円＋社内工数6万円
＋追加支援10万円

＝

年間純便益

54万円

ROI 約117%　|　**便益は総費用の約2.17倍**

ROI＝（100万円－46万円）÷46万円

マイヒロイック利用料：
社員1人月額500円

利用人数は任意
50名×500円×12か月＝30万円

社内工数：6万円（試算）

- 周知・制度情報確認・月次確認など
- 年間20時間×3,000円
- 企業担当者の作業時間を費用換算
- **社内工数はHEROICへ支払う追加料金ではありません。**

追加支援：10万円（仮定）

大学での分析を利用する場合
必要に応じて別途見積

試算例であり、離職抑制や投資回収を保証するものではありません。
100万円／人は仮定。MY HEROICへの効果の帰属を検証し、社員の節約額は企業便益に含めません。

90日の検証で確かめること

まず社員の利用・行動と担当者の運用負荷を確認する

01 | 社員

必要な支援に進めたか

- 利用率・相談テーマ
- 行動の実行状況
- 不安・時間やお金の余裕

02 | 担当者

無理なく運用できるか

- 周知と月次確認の工数
- 問い合わせ対応
- 審査・匿名集計の運用

03 | 継続判断

何を続け、何を変えるか

- 支援の改善点
- 費用と提供範囲
- 継続・再検証・終了

開始前に評価基準を合意し、90日後の判断材料を残す

500〜1,000名企業、任意利用者100名程度を想定。基準は合意し、90日で離職改善を証明しません。

導入手順と、担当者の作業

初期導入はリンク・QRを中心に開始し、必要な連携を後から検討する

期間	企業担当者の主な作業	HEROICの支援と報告
1 開始前	目的・対象・費用・評価方法を決定 契約・セキュリティを確認	導入計画・審査資料 社員案内・FAQを準備
2 1〜14日	社内に周知 案内する既存制度を確認	利用開始と問い合わせに対応 操作上の問題を確認
3 15〜60日	30日・60日の報告を確認 周知・制度案内の改善を決定	匿名集計と改善案を提示 支援導線を改善
4 61〜90日	費用・利用・運用負荷を評価 継続・再検証・終了を判断	最終報告 次の実施範囲を提案

導入担当者の主な疑問

検討時に説明しておきたい4つのポイント

01 すでに福利厚生やEAPがある

現在の制度を活かし、
悩みから必要な支援へ進む入口を補います。

02 会社に相談内容が見えるのか

個別の相談は共有しません。
企業には10名以上の匿名集計を提供。

03 担当者の仕事が増えないか

主な作業は目的の合意・周知・月次確認。
検証で実際の工数を測ります。

04 離職や生産性の効果を説明できるか

短期は利用・行動を評価。
離職や企業便益は中長期で寄与を検証します。

料金体系

初期費用を抑え、小規模から始められるため、社内説明・稟議に載せやすい設計

スタンダードプラン

初期費用	0円
月額費用	500円／ユーザー
年間費用	6,000円／ユーザー

※1ユーザーあたりの金額です

プランに含まれる内容

- 利用回数：無制限
- WEB問合せ対応

初期費用無料

0円で開始しやすい

1ユーザー単位で契約可能

小規模導入から始められる

3親等まで利用可能

社員本人だけでなく、家族課題にも対応

3か月無料トライアル

導入前に効果を確認しやすい

導入しやすさ

初期費用0円・1ユーザー単位

利用の広がり

3親等まで利用可能

検証しやすさ

3か月無料トライアル

料金と提供条件

1人月額500円・利用人数は任意。検証と継続の条件を合意する

確認項目	提案・確認する内容
料金の内訳例	50名利用：3か月 **7.5万円** ＋ 継続9か月 **22.5万円** ＝ 年間 **30万円**
基本範囲案	AI、公的情報、専門家接続の案内、標準匿名集計、導入案内
別途見積もる支援	大学での分析、専門家の有料相談、システム連携
データとセキュリティ	取得・保存・削除、同意、集計抑制、管理者MFA、企業別分離
AIと運用体制	AIは整理・案内を担当。専門判断、問い合わせ・事故対応を確認

料金・人数・上限・税区分・解約・支払時期は契約で確定。保存・振り返り・追加集計は実装確認後に提供。

貴社で確かめたい課題を

導入目的・対象・評価基準・費用を整理し、90日の計画を具体化します

01 |

制度の利用を増やしたい

02 |

仕事と家庭の両立を支えたい

03 |

支援の費用と成果を説明したい

株式会社HEROIC（ヒロイック）

https://heroic.co.jp/　TEL 03(3664)8931　MAIL info@heroic.co.jp

2020年4月8日設立　東京都中央区日本橋小網町13-8 安田小網町ビル202